

自 己 評 価 書

(令和4年度)

令和5年2月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
	1. 教育課程・指導	2
	2. 保健安全管理	10
	3. 組織運営	14
	4. 研究と研修	17
	5. 教育環境整備	21
	6. 教育実習	22
III	自己評価別添根拠資料一覧	27

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(令和4年5月1日)
幼児数129人 教員数7人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

- ⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 令和4年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究の成果を生かし、現代的な教育課題に係る研究・実践を推進する。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン(教育課程・指導計画)作成に関する取り組み状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
- ・地域住民への貢献

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

II 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到に係る状況】

幼稚園教育要領では、小学校教育との接続においてつながっていく資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、小学校と子どもの姿を共有する手掛かりにしている。本園では、幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の伝統や特性を生かした教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成して実地指導を進めている。

幼稚園教育要領における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「言葉による伝え合い」、「協同性」、「豊かな感性と表現」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」などの項目は、中期目標（No.48）に掲げた一貫型教育プランの「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」でも重視しているものである。

今年度は、これまで感染症対策で実施を見送っていた絵本の貸出しを保護者の理解のもと再開した。感染防止対策を講じながら各学級で週に一度、絵本の貸出しを行い貸出し後の時間を使って保護者への各学級の計画・保育説明も実施した。

【分析結果と根拠理由】

「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、毎月これを活用した全体打ち合わせと指導の評価を実施し、カリキュラムマネジメントを行った。令和4年度附属幼稚園オープンスクール（来園者：117名・アンケート回答者：78名）のアンケート集計結果によると、本園の保育については97%の保護者が「とてもよい」と評価している。「子どもが活発に活動している様子が見られ、先生方も明るく笑顔で子どもに寄り添いながら声をかけたり、励ましてくれたり真摯に対応してくださる様子が見られました。子どもが遅くなってきたように思います。自由に遊んでも危険がなく、なお興味をひくように整えられており清潔である。」などの記述からは、幼児理解と環境の構成についての専門性について高評価が得られている。

教師の援助については、「子どもの気持ちと行動を尊重しながら年齢に合わせた成長を促して頂ける素晴らしい保育だと思う。子どもが自主的に行動できているところが素晴らしいと思った。また自主性を育む先生方の子どもたちへの関わり方が今後の育児の参考になった。」などが評価されていた。集団活動・協調性・生活習慣形成についても「子どもたちが自分の好きなことを見つけてのびのびと自由に遊んでいる。自宅保育ではなかなかできないような遊び方もでき、集団行動の中でのルールを自然に身につけることができている。」と評価された。このような、本園の教育への理解には、今年度再開した各学級の計画や保育説明の実施が大きいと考える。

令和4年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）【別添資料1-①】

実施日	令和4年11月3日（木）		
対象	オープンスクール参観者	保護者	117名（アンケート回答者 78名）
内容	1 保育について	3段階評価及び自由記述	
	2 環境整備について	3段階評価及び自由記述	
	3 その他感想・意見	自由記述	

アンケート集計結果

○保育について

- | | |
|----------|-------------|
| ・とてもよい | 76名 (97.0%) |
| ・あまりよくない | 0名 (0.0%) |
| ・どちらでもない | 2名 (3.0%) |
| ・記入なし | 0名 (0.0%) |

○環境整備について

- | | |
|------------|-------------|
| ・よく整っている | 73名 (93.6%) |
| ・もっと整えて欲しい | 2名 (2.6%) |
| ・どちらでもない | 3名 (3.8%) |
| ・記入なし | 0名 (0.0%) |

保育について自由記述の概要

【子どもたちの様子】

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- 園児たちがのびのびと活動できていました。
- 自分が好きな遊びをとことんしていた。
- のびのびと、考えながら遊ぶ子どもの姿に感動しました。
- 自由に遊んでのびのび育っていると思ったから。
- のびのびと子どもたちが活動できていて、いつも楽しそうだと感じます。
- 子どもたちがしたいと思う活動を自由にさせてくれることで、伸び伸びイキイキしている。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- 自由に遊びつつ、学んでいました。
- 自由なのは良いが、目が行き届いていない。
- 自由に遊んでいて、自主性を重んじてくれているところ。
- いつも子どもたちのやりたいという思いから、それを実現させるための計画や準備を子どもたちを主体にして関わってくださって、先生方の子どもたちへの関わり方に毎回感銘を受けています。今回、最後に金メダルを私たち親に贈った後の、計画が成功して嬉しそうな子どもたちの姿がとても可愛らしくて、先生のおかげだと感謝しています。
- 子どもたちのイキイキとした顔が近くで見られて良かったです。自分たちで考えて準備して実行するところまで先生が後押ししてくださっていることが伝わりました。お疲れ様でした。
- 子どもが主体となった保育がとても良い。
- 自分達で何をすればいいか考え動いている。
- 子どもが自主的に行動できているところが素晴らしいと思った。また自主性を育む先生方の子どもたちへの関わり方が今後の育児の参考になった。
- 子どもたちが伸び伸びし誰一人として取り残されている子がいない。

【幼稚園・教師について】

★教育方針・指導理念

- 小学校のグラウンドを共用することで、動くスペースを確保しているが十分な環境とは言い難いと思った。むしろ、十分ではないスペースにある遊誘財を利用した普通の教育をどのように展開しているのか見てみたいと思った。
- 子どもが活発に活動している様子が見られ、先生方も明るく笑顔で子どもに寄り添いながら声をかけたり、励ましてくれたり真摯に対応してくださる様子が見られました。子どもが逞しくなってきたように思います。
- 子どもたちが自分の好きなことを見つけてのびのびと自由に遊んでいる。自宅保育ではなかなかできないような遊び方もでき、集団行動の中でのルールを自然に身につけることができている。
- 保護者も共に学べる環境であり、感謝しております。
- 先生方が子どもたちに対して、活動に集中できるようにまた、意欲を沸き立たせるような声かけや対応等、本当に素晴らしいなと感じました。子どもたちや、他の保護者の方と一緒に体を使った保育に参加させて頂けたこともとても楽しく、良い交流をさせて頂くことができました。
- 各遊びを通じて目的や養えるものの説明が聞け、納得することがあった。
- 子どもがやりたいことを生き活きとやって、発展的に遊べるように先生方が補助してくださっていて、充実した園生活を送れていた。
- 子どもたちが自主的に遊ぶ姿を尊重している。
- 限られた時間のなかで、子どもたちが興味のある事を思う存分楽しんでいると感じました。
- 子どもの気持ちを尊重してくれ、自尊心を高めてくれて感謝しています。
- 子ども主体で先生方にサポートしていただきのびのび保育生活ができているように思います。

★季節感や自然を大切にされた保育展開

- 親子共に体を動かして楽しかった。
- 教室の中心にどんぐり転がしの机があり、隣にはカップなどが置いてあり、子どもたちがすぐに遊びたくなるようにされていました。
- 腰かけてみたくなる切り株やベンチ、触ってみたくなる植物、掘りたくなる砂場、作ってみたくなるまつぼっくりやどんぐり、自然と意欲がわく環境になっていた。
- 園庭の真ん中に木があるのが邪魔でないのかな？と思ったりしますが、それは大人の考えであり、むやみに切らず、自然と共存して遊ぶことを学んでるのかな？と、それはまたそれで素晴らしい！と感じました。
- 季節の草花や食育など、考えてくださっているのがありがたいです。
- 自然や人、ものとの触れ合いが十分にでき、好奇心を満たせるような環境だと思った。
- あちらこちらに、季節の物を使った環境が飾ってあったり、子どもたちが自由に使えるような環境が素敵だなと思った。
- 子どもたちの目線になり、自然が生かされているから。
- 植物も多く、自然豊かだと感じます。
- 季節の花や野菜が育つ様子を身近に感じられ、収穫したり遊びに取り入れることができる。

★教師の姿勢・指導力

- 先生方の人格が素晴らしい。
- 先生がよく子どもたちを見てくれていると感じました。

- 丁寧な声かけが頻繁になされており、子どもたちが先生の指示や意図を正確に理解しながら、考えて行動できる様子が見られた。
- 4月からの成長が感じられ、日々の生活の中で先生方のご指導でできることが増えてきたことを実感できた。
- 子どもの好奇心を受け止め、実行させてもらえる。
- 先生方が子どものことをよく理解してくれており、それに合わせて教育等をしてきている。
- 先生が子どもたちのために全力で関わってくれているのがわかった。
- 幼児が主体的に活動できる保育で、幼児一人一人のことをよく把握し、理解してくださっていると思いました。
- 子どもたちに、なんでもやらせてあげている保育が素晴らしいと思った。どんな細かなことでも気づいて、褒めて伸ばす先生方の姿に脱帽です。
- 先生の指導が的確。
- 子どもたちに負けないように先生が子どもたちと触れ合っている。
- 子どもの気持ちと行動を尊重しながら年齢に合わせた成長を促して頂ける素晴らしい保育だと思います。
- 先生方がよく頑張ってくれている。
- 前向きな声掛け、ギャグ等も取り入れて子どもに考えるような関わりが見られた。
- 先生方も子どもたちと一緒に同じ目線で体全体を使って活動している。
- 子どもが生き生きと活動し、先生が適切な声かけや細やかな心配りができている。
- 先生方が子どもたちに耳を傾けてくださっている。
- 子どもたちのやりたいことや意見に寄り添って行動していた。

環境整備について自由記述の概要

★全般に整備状況

- 園庭の遊具や、屋上の施設などよく整っていると感じました。
- 色々子どもたちが自分で行動できるような仕組みがあると思いました。
- 保育室やテラスの子どもが使う用具も整頓されていた。
- 子どもが遊びたい場所に必要なものが配置されており、自由な遊びが展開されていたので必要十分であると感じた。
- 折々で、子どもたちが達成感や意欲が湧くような環境作り整備をしてくださっていると感じました。
- どれも子どもたちの目線で準備されていていいと思います。
- 工作、外遊び、どれをとっても子どもがそれぞれにやりたいことを見つけられる環境を常に提供してくださっているから。
- きれいにされているが、老朽化。
- 遊びに集中できる環境を築いていただきありがとうございます。
- 屋上のサッカーや屋台屋さん、剣作りの材料、鉄棒など至るところに魅力的な遊び場がありました。
- 遊具、砂場、屋上、遊戯室等、園内の至る所に遊ぶ場が散りばめられており、その空間を自由に行き来できる。
- 室内も外もよく整っている。子どもたちの視線に沿って物も大切にしているのが伝わってきた。
- 隣には小学校の広いグラウンドがあり、屋上でもサッカーや一輪車ができる環境があるのは他の幼稚園には無いように思います。また色々な植物、お芋など季節の食べ物にも触れることができとても環境が整っているように思います。

★安全管理

- 目の行き届いた、安心できる設備だと思えますいつも綺麗にされていると感じます。
- 先生が子どもたちをよく見ている。
- 子ども自ら行動し遊びを通して学べるよう、見守っていただいていることに日々感謝しております。
- 子どもが工作をしたい！と思ったらすぐに取りかかれるように材料、道具一式揃っていた。
- 先生もいつも視線を配ったりお声掛けをしてくださったりして安心してました。
- こんなに清潔な幼稚園は他にないと思います。
- 先生方が掃除やお手入れを丁寧にして下さっていると感じました。
- 自由に遊んでも危険がなく、なお興味がひくように整えられており清潔である。

★遊具・素材・材料等

- 子どもたちそれぞれが自分のやりたいことを目一杯好きにだけできる環境（保育者のサポート・安全性を含め）が十分に用意されている。大人でもわくわくするようなしかけが沢山あり、あれもこれもやりたいなと思わず迷ってしまう。
- 遊び道具が沢山あり、普段楽しく学んでいる様子うかがえました。
- 心惹かれる材料がたくさんあった。
- レモン石鹸で遊ぶための道具の揃え方、片付けやすさ、など子どもたちが遊ぶのに適していると思った
- そこに子どもたちがいなくても、園の至る所に子どもたちの存在や、好奇心を感じる。それでいてよく整頓もされている。
- 子どもたちが自分で手に取ったり、遊びを始められるように物品が置かれていたり片付けのルールも本人たちがよく理解していた。
- 色水を作る道具について、大体複数個用意されていたが一つしかないものがあり、園児がなかなか順番が回ってこず、不自由そうにしていた。

その他について自由記述の概要

- 子どもの考えや様子がわかり、良かったです。
- 入園時から個も集団も成長を感じる。
- 保育時間がもう少し長いと子どもたちにもよいと感じます。
- 先生の数が少ないように思います。子どもが自由に色々なことをやれる分だけアドバイスを求める機会も多くなると思う。
- いつも十分な準備をしていただいていると感じています。
- 不満は無い。

別添資料 1-① 令和4年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

別添資料 1-② 令和4年度幼稚園評価アンケート結果報告書

別添資料 1-③ 生活プラン

観点1-2 幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

本学の推進する幼小中一貫型教育プランの一つである、「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」のもと、コロナ禍においても積極的な幼小の合同保育／授業の展開と改善がなされている。文部科学省は、幼小架け橋プログラムを推進しておりカリキュラムの作成

にとどまることのない実践を求めている。これを受け、再度幼小接続について基本を確認したり、小学校教諭への説明や情報提供を行うことで、幼小接続への理解を深め、幼児・児童の成長発達にとって意味のある実践になるようにした。また、10月15日（土）に開催した幼児教育研究会においても幼小接続や科学的思考についての研究発表や分科会を行った。さらに、県教育委員会や郡市教育委員会が実施する法定研修や基本研修、県・郡市幼児教育研究会でも、幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムやSTEAM-IC教育の研究内容を活用し、県下への普及を図った。

【観点に係る状況】

1. 幼小連携の科学的思考力涵養プログラム

(1) 教育目標

<p>－「育てたい力」－</p> <p>①「わくわく ときどき」感動する心を育てる。</p> <p>②人間の本来の知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。</p> <p>③知恵のある生活（暮らし）を受け継ぐ者として育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域（日本）の衣食住の様々な共有体験を豊かにする。 ・自然と一体化して生きていく生活を豊かにする。 ・生活の中の様々な問題を解決していく中で科学的思考力を身につけていく。 <p>④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。</p>
--

(2) プログラムの内容・方法

幼児期は事象に対する直感的感性的把握と試行錯誤の時代で、感性を構成する要素である、気づく・感じる・考える・関わる・行動するが順に意識化され、次第に高次化され、発展していく特性をもつ。事象に対する感受性（気づく、感じる）や思考性（思う、考える、創造する）が活動性（関わる、行動する）と関係しながら循環的に働き、かつ、その相互作用によってそれぞれの働きがより活発になっていく。幼小連携の科学的思考力涵養プログラムでは、以下の ABCD のカテゴリーの活動を誘発し、幼児との相互作用の中でより豊かな学びを生み出していく環境、つまり、遊誘財を活用し保育展開をすることが有効である。

<p>A. 発見と問題解決</p>	
<p>①好奇心・試行錯誤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。 ○多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。 ○発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。 ○「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。 	<p>②論理的に理由付けされた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。（帽子・手袋・上着・雨傘など） ○使った遊具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。 ○遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。 ○最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。 ○自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。
<p>B. 言葉への関心</p>	
<p>①話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。 	

- うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。
- 主述をはっきりさせて自分の意見を言う。
- 出来事やものの特徴を、かかわっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。
- 比喻や例を用いて話したり説明したりする。
- しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。
- 好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。
- 絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。
- トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。

②書くこと

- 書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。
- 自分の名前が分かり、平仮名で書ける。
- 書きたいと思い、文字や表示（ロゴ）などを見ながらまねて書く。
- 友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。（手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど）

C 数量と図形（平面・立体・空間）

①数理的な見方や考え方や表現

- 対象を比べる
 - ・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、ものの数（数量）を見つけ出す。
長い—短い（長さ）／大きい—小さい（体積）／多い—少ない（容積）／重い—軽い（重さ）／強い—弱い（強さ）／早い—遅い（時間）／速い—遅い（速さ）／冷たい—熱い（温度）など
 - ・ものの形（図・形・空間）の違っている所（共通・相違点）に気付く。
長い—短い（長さ）／高い—低い（高さ）／深い—浅い（深さ）／広い—狭い（面積）／丸い—角い（角度）など
- まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。
($A > C > B$) / ($A = B = C$)
- 毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった（0個）と言うような表現を用いる。（0の概念形成）
- 人・個・本・枚など数詞を遣って話す。
- ～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。
- 今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。

②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）

- 生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。
（例；30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど）
- 求めに応じて、「○○を○個」、「○○を○個」、「○○を○個」など、種類や数の違うものをとる。
- 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
- 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。
（カレーライスやクッキーなど）
- お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につぎ分けようとする。
- ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

③図形（平面・立体・空間）

- 体（目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など）やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。（例：動植物や図や国旗や絵本など）
- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。（例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど）
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。（ジグソーパズルや自作の遊具など）
- 折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。
- 真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。
- 上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。

	<p>○積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。</p> <p>④パターンと組み合わせ</p> <p>○ものの形（大きさ・長さ）や色の形状や特徴に応じて並べる。</p> <p>○パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。（例：トランプやサイコロの目）</p> <p>○並んだ絵の繰り返しに気付き、次にくるものを予測して楽しむ。</p> <p>○カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。</p> <p>○日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。</p> <p>○いくつかの特徴で事物を分けたり仲間（集合）作りをしたりする。</p> <p>○自分自身でパターンをつくって楽しむ。（例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で）</p> <p>○拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。</p>
<p>D. 協同的感性</p>	<p>①協同的な言葉や表現</p> <p>○友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。</p> <p>○役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。</p> <p>○友達と活動の目的や目標などについて話し合う。</p> <p>○相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。</p> <p>②人間を理解し関係を調整する力(21項目)</p> <p>○異質なものの出会い</p> <p>①自分の思うようにならないことを体験する。</p> <p>②必要なときに、人に助けを求める。</p> <p>③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。</p> <p>④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。</p> <p>⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。</p> <p>⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。</p> <p>○異質なものへの興味や関心</p> <p>⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。</p> <p>⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。</p> <p>⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聴く。</p> <p>⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。</p> <p>⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。</p> <p>○他者との交流</p> <p>⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。</p> <p>⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。</p> <p>⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。</p> <p>⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。</p> <p>⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。</p> <p>⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。</p> <p>○関係性をつくる</p> <p>⑱友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。</p> <p>⑲仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。</p> <p>⑳緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。</p> <p>㉑問題に対して創造的に解決しようとする。</p>

【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間） ④パターンと組み合わせ」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目を設けた。このことによって具体的な幼児の姿として可視化できるようになり、指導の反省と改善に生かされている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

幼児期から児童期に向けての科学的思考力涵養を図るという観点から発達や学びの連

続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決(①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動)」、「言葉への関心(①話すこと・聞くこと ②書くこと)」、「数量と図形(平面・立体・空間)(①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること(分離量や連続量)③図形(平面・立体・空間)④パターンと組み合わせ)」、「協同的感性(①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力(21項目))。これらを基に幼稚園教育を伝え、幼稚園教育への理解が得られやすくなる。参観者や講演時に伝え、活用したいとの声が多く上がる。

【改善を要する点】

評価項目や内容についての妥当性を確認することができたが、コロナ禍ということもあり、幼小合同保育/授業ができておらず、教師同士が接続の相互理解を進めることや、保育実践の中で活用し、改善の可能性について追求していくことが求められる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

【観点到係る状況】

月別指導計画の見直しの実施については、今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、時期に合わせた疾病の予防・自分たちの体のことなどについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。食育については新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、園内のおやつでの飲食を実施しなかった。代わりに保健だよりや個別に保健指導を行い成長に必要な栄養素や食事回数など指導した。食物アレルギーの対応が必要な幼児については、アレルゲンを完全に除去し、安全に園での生活ができるようにした。併せてアレルギーのある人への正しい知識と理解を同じ学級の幼児に担任が指導した。また、食物アレルギーのある幼児については、4月当初に保護者と個別面談をし、アレルギー管理表を提出してもらうとともに職員に説明し共通理解を図り、職員研修を実施することにより職員の知識・技術の向上に努めた。

保護者へは、健康診断後、「ほけんだより」に身体測定の様子を掲載した。個人毎には、健康診断結果一覧表を配付し、治癒勧告のある幼児は再度医療機関への受診をお願いした。保健指導については、コロナ禍における保健指導を担当を通じて行った。手洗いと手指消

毒の方法や、咳やくしゃみの飛ぶ距離などと咳エチケット指導、汗をかいたら拭いて着替えをするなどの基本的な生活習慣について指導をした。また、各組のえほんのへやの時間を利用し、発達段階に応じてむし歯ができる原因と歯磨き指導（うがいの方法）を行った。毎月幼児と保護者に向けて「ほけんだより」を配付し、幼児に健康の概念が育つような内容とした。保護者には、園内で流行している疾病の予防法や健康診断後の考察、保健室の利用状況などの情報を適宜提供し、園と家庭が協力して幼児を育ていけるように協力をお願いした。また、保護者からの健康相談に個別に応じ、園と家庭の共通理解を深めた。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接触れるものについては、消毒をするなどの配慮をしている。感染症対策として、年間を通して、徳島県感染症情報センターからの最新の情報や周囲の学校の状況を把握し、職員に周知して予防に努めた。さらに今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、教室、遊具、文房具や玩具、廊下など園内の床や柱に至るまで職員全員で消毒を毎日行っている。手洗い方法も園舎内へウイルスが入らないように園舎外で必ず手洗いと手指消毒を行うように徹底した。

また、登園時の幼児と保護者の体温測定とマスク着用を確認したり、密を避けるために、集会をリモートにしたり、常時換気をしたりして予防に努めた。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。また、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えている。

【資料】 保健室2月の指導計画

【幼児の姿】

- ・気温の急な変化により、熱が出たり咳をしたりしている幼児もみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身につけて、暖かくしている。
- ・外で走ったり運動をしたりするときは、上着を脱いで遊ぶことが徹底されてきている。
- ・うがいや手洗いなどが、水が冷たいので十分でない幼児がいる。
- ・園の生活に慣れ、自己中心的だった幼児たちが、友達と一緒に行動することが常になってきた。友達の話をよく聞き相手の気持ちを汲める幼児もいる。

【ねらい】

- ・感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。
- ・上着を脱いで、戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。
- ・友達の気持ちを知り、あたたかいことばが、かけられるように考えることができる。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
○感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。	○感染症の予防には、丁寧に手を洗うことや、手指消毒が大切であることを学習し、水が冷たいので丁寧に洗えていないことを伝え丁寧に洗えるようにする。 ・トイレの後、おやつの前、外から帰った後、お弁当の前は、必ず手洗い・手指消毒をするよう声をかける。
○規則正しい生活をする。	○早寝・早起きや、バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にもお願いする。 ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ、たとえば豆まきでは「病気もそと」と、病気に負けない気持ちを育てる。

<p>○上着を脱いで、戸外でしっかり運動をしようとする。</p> <p>○友達の気持ちを知り、あたたかいことばが、かけられるように考えることができる。</p> <p>(保護者への対応) *保護者との健康相談の場を設ける。</p>	<p>○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・ホッピングなどで身体を思い切り動かし、戸外で元気に遊んでいる。上着を着たままだと汗で頭までびしょりと濡れてしまうので、外へ行くときは必ず上着は脱いでいくことをお願いしてきた。ほとんどの幼児ができているので、さらに徹底していくよう声かけをする。 ・寒くなると身体がかたくなり、けがをしやすいため、十分に準備運動をするなどし、けがの予防をする。</p> <p>○友達と一緒に遊ぶことの楽しさをみんなが理解してきたようであるが、それに伴い、自分の気持ちが通らなかつたり、いえなかつたりして、友達にいやな気持ちになるようなことばかけをして、けんかになつたり、泣いたりしている。 節分にちなんで、あたたかいことばをかけるふわふわ鬼といやな気持ちになることばをかけるちくちく鬼を例にして、園や家庭でことばについて考える機会をもつ。</p> <p>*子どもたちの身体や心の健康について、また、子育て全般について、健康相談の場を設けるとともに、必要に応じて専門機関への連絡を取るなど、保護者のニーズにあった支援を行う。</p>
--	--

別添資料 1-② 令和4年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料 2-① ほけんだより 2月号

観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

【観点に係る状況】

「令和4年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」(別添資料2-②)を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が複数体制で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなどの即時に対応をしている。また、6月には教職員が全員で心肺蘇生法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行った。

【資料】 防災・避難訓練の実施

①防災訓練(地震)計画	
○ねらい	・実際に地震が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。 ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
○期 日	令和4年5月10日(火) 9:45~10:00
②避難訓練(不審者対応)計画	
○ねらい	・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
○期 日	令和4年5月26日(木) 10:50~11:05
○状況設定	・幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定 ・不審者が城山側県道から侵入。石庭「大地の子」に入ってきたと想定

③防災訓練（地震・火災）計画

- ねらい
- ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
 - ・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- 期 日 令和4年9月1日（木） 9：40～10：00

④幼小合同避難訓練（地震・津波想定）計画（今回は幼稚園単独で実施）

- ねらい
- ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
 - ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- 期 日 令和4年10月3日（月） 9：40～10：00

⑤防災訓練（全国一斉地震速報訓練）計画

- ねらい
- ・地震による揺れから身を守る。
 - ・緊急地震速報を見聞きした時、強い揺れに襲われるまでの短い間に慌てずに身を守るなどの行動を身に付ける。
- 期 日 令和4年11月2日（水）10：00頃（気象庁からの訓練用緊急地震速報の配信時刻）

⑥避難訓練（地震）計画

- ねらい
- ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
 - ・地震の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- 期 日 令和5年1月17日（火） 10：15～10：25

⑦幼小合同避難訓練（地震・津波想定）計画

- ねらい
- ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
 - ・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
- 期 日 令和5年2月7日（火） 10：30～11：00
※地域の担当者の参加あり

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知して、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めた。また、今年度実施後、問題点や課題を考察し、次年度からの危機管理マニュアルに反映できるようにする。

別添資料 2-② 令和4年度安全管理計画－危機管理マニュアルー

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、幼児の実態を観察することで月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、適宜よりよく改

定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も幼児が保護者と一緒に読め、健康教育につながるように、ひらがなとカットで構成し、健康について考えてもらえるように工夫した。ほけんだよりの内容に合わせた掲示物を保健室で掲示し、怪我や病気での上室時に個別に話ができるようにした。健康の概念をまだ持っていない幼児に対して、元気で登園するための正しい生活習慣がしっかりと身につくように考えた。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせたりしている。今年度も、気象庁主催の全国一斉地震速報訓練に参加した。今年度の防災訓練は、全て訓練があることを事前に子どもたちに知らせずに訓練を実施した。幼児は、どの子どもも遊んでいた場所の近くの保育者の側に集合し、保育者の指示に従い、速やかに避難することができた。避難訓練を重ねることにより、幼児は自分たちが遊んでいたところに大人がいなかったため、自分たちで考えて、隣の保育室にいる教員の元に逃げることができていた。また、避難訓練時には、当日園内で活動している保護者ボランティアも訓練に参加するなど、保護者の意識も高めるようにしている。

毎年、教職員が附属小学校主催の心肺蘇生法の講習会に参加していたが、今年度は、日本赤十字社徳島支部より講師を招き、幼稚園で実施した。救急処置において幼児に対応した実技講習による技術習得のみならず、食物アレルギーについての最新の知識とアナフィラキシーショックが起きたときの対応も知ることができた。実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。

また、交通安全の面では、毎年市が主催する交通安全教室を実施し、幼児に道路を通行する上でのルールを守ることの大切さを伝えている。

【改善を要する点】

何度も同じ訓練を行うことにより、幼児が安全に動けるように考えていきたいと考える。また、災害時には、保護者との連絡手段やお迎えの道が絶たれてしまうことも考えられる。様々なシミュレーションを考え、柔軟に対応できるような訓練をしたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到係る状況】

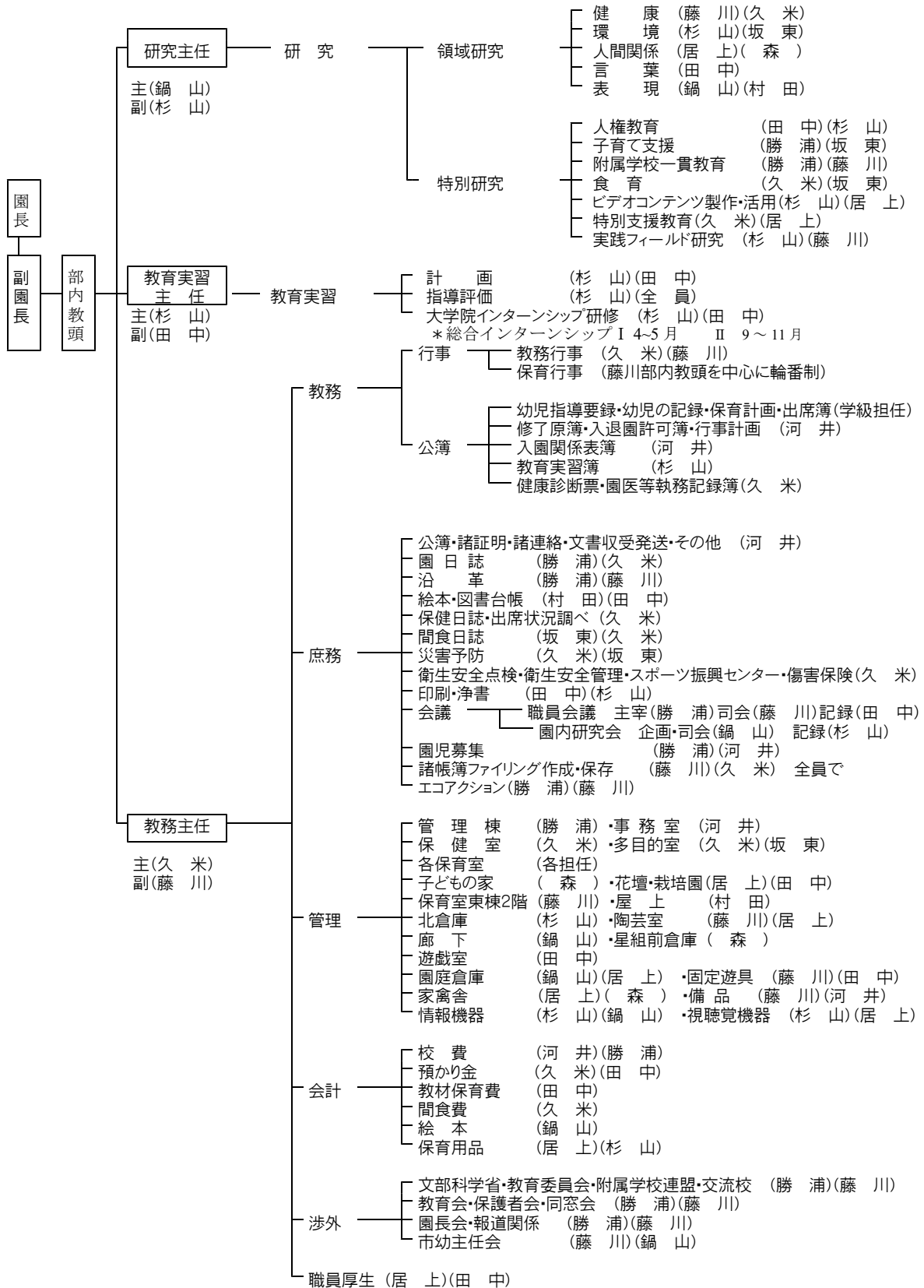
本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。平成26年度より専任教頭が廃止されたので、学級も担任する部内教頭の負担を減らし、各主任のリーダーシップが発揮されやすいよう改善を行ってきた。少数精鋭主義に徹して、職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮するとと

もに、各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし、主体的に園経営に参加できるように努めた。コロナ禍でも、今できる最善の行事のもち方を話し合ったり意見を交わしたりしながら進めていった。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告をあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしている。その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

【資料】 令和4年度第1回職員会議題

令和4年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	令和4年4月1日（金）	9：30～
と ころ	附属幼稚園多目的室	
議 事	園長あいさつ 転入者あいさつ	
1 協議事項		(担当者)
(1) 令和4年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 令和4年度 教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 令和4年度 職員の勤務について	資料1	(園 長)
(4) 令和4年度 園経営方針について	資料2	(園 長)
(5) 令和4年度 園務分掌について	資料3	(園 長)
(6) 令和4年度 年間行事予定・4月行事予定・春休みの勤務について	資料4	(藤川・久米)
(7) 新学期諸準備について	資料5	(杉 山)
(8) 新入園児用品渡しについて	資料6	(杉 山)
(9) 入園式について	資料7	(久 米)
(10) 始業式について	資料8	(久 米)
(11) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料9	(久 米)
(12) 芙蓉会規程について	資料10	(河 井)
(13) 園児緊急連絡網等について		(藤 川)
(14) 令和4年度 幼稚園要覧について	資料11	(藤 川)
(15) 四附連について		(園 長)
2 連絡事項		
(1) 文書整理・情報管理等について		(園 長)
(2) 経費節減について		(園 長)
(3) 四附連について		(園 長)
3 その他		
(1) 労働環境協議会役員改選について		(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について		(園 長)

【資料】 令和4年度 園務分掌



- * 動物の家 森講師, 5組担任を中心に
- * 誕生リボンと表示 森講師

【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営を行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担は大きいですが、各々が責任をもって園運営にあたっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌を詳細に示し、責任の所在や業務内容を明確にすることで、少ない職員数で運営できるように工夫している。責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。

年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。また、実施にあたっては全員で再確認のための打ち合わせを行い、確実に実施できるよう努めている。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。また、教職員が少人数であるため、全員で取りかかると、そうではない場合を明確にし、運営の効率化を図っている。また、今年度より、新型コロナウイルス感染症対策のために幼稚園と保護者をつなぐ連絡手段をデジタル化するサービス（スクリレ）を始め、保護者への連絡がスムーズに行えるようになってきている。ICTの有効活用が進むことで業務の軽減につながっている。

【改善を要する点】

「働き方改革」の実践のために、これまでは職員が行っていた施設や遊具の修繕・塗装などは外注している。また、幼児教育研究会の参加申込みを、今年度も外部業者に委託した。仕事の共同作業化と工具等の購入等の改善を随時行うなど、職員の負担軽減のための方略を工夫しているが、業務や組織構成の見直しを行う必要はまだある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目4 研究と研修

(1) 観点ごとの分析

観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況

【観点到る状況】

①園内研究会・合同研究会

我が国の幼児教育が直面する課題を捉え、大学教員と協力し、実践と理論の両面から幼児教育における先導的役割をこれまで果たしてきた。

現在、中央教育審議会において、令和の日本型学校教育を目指した質の高い学びに向けた取り組みとして、幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会による「幼保小の架け橋プログ

ラム」の実施が進められている。そこで課題として「幼児教育の質に関する認識が社会的に共有されているとは言い難く、小学校教育の前倒しと誤解される」ことがあげられ、「遊びを通じて学ぶ幼児期の特性の再確認」が必要とされている。発達の段階を見通しつつ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する理解・活用の促進が、目指す方向性として出されていて、このことについては多数の書籍が出されるなど社会的な関心を集めているが、上記報告には、目指す方向性として「すべての子どものウェルビーイングを保障するカリキュラムの実現」が明記されていた。幼児の資質能力を育むうえで、幼児の主体性や実体験の中の感動体験など幼児にとってのウェルビーイングが前提としてなくてはならないということに立ち戻り、本園では「幼児があるがままの生活の中で経験することや、そこで感じる幸福感など（ウェルビーイング）」を原体験と定義し研究を進めていこうと考えた。（幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 審議結果報告令和4年3月31日より）

今年度の研究テーマを「遊誘財研究をいかした『質』向上への挑戦Ⅱ - 幼児期に必要な原体験の充実 - 」と設定し、園内研究会・合同研究会を行った。本大学との合同研究会はオンライン会議システム（Zoom）を使用し、回数を重ねたことでリモート会議の運営も円滑に行えるようになってきた。少しの時間でも参加できることが利点となり、他の会議や出張の合間をぬって参加していただくことができた。園内研究会のうち5回は、公開保育を兼ねた研究保育を行い、人数制限を行ったうえで県下の保育者に参加募集をした。このことは昨年度の反省を踏まえたものである。感染対策や連絡体制などを整えたことで、予定どおり行うことができた。各回とも、熱心な参会者を迎えることができ、本園からの提案や意見交換などを行った。

②幼児教育研究会

事例研究や合同研におけるカンファレンスを通して得た研究成果を、広く発信することができた。今年度は、昨年度の意見を踏まえて保育環境のみの公開（人数制限あり）を行った。感染状況を踏まえ、幼児がいる状態での保育公開はできなかったが、142名の参観者に本園の保育環境を見てもらうことができた。各会場では、保育動画の公開もあわせて行い、幼児がどのように生活しているかをイメージしやすいよう工夫をした。

研究発表は、リモートと現地参加のハイブリッド型で開催した。上記参観者に加え、リモートで268名の参加者があり、合計410名の参加者となった。今年度はリモート参加の方からも質問ができるよう、チャット機能を使い、司会とは別に運営担当のスタッフや機器担当のスタッフなどを置き、スムーズに運営することができた。多数の質問をうけて活発な討議となった。

申込み受付や配信などは昨年同様、専門業者に依頼したことで作業の効率化を図ることができ、働き方改革において一歩前進することができた。研究紀要の購入受付などもデジタル化を図っており、今後も改革を進めていきたい。

環境公開・全体会・分科会の内容については以下のとおりである。

1) 保育環境・保育動画 公開 (12:00～13:30) ※幼稚園環境のみ公開

2) 全体会（開会・挨拶）(13:30～13:50)

鳴門教育大学	学長	佐古 秀一
	附属幼稚園長	勝浦 千晶

3) 全体会（研究発表）(13:50～14:20)

4) 分科会 (14:30 ~ 16:00)

分科会①フレッシュ保育者・リーダー保育者

司会・コーディネーター	教員養成特別コース教授	木下 光二
	幼児教育コース 教授	佐々木 晃
提案	園長	勝浦 千晶
	教諭(4歳児担任)	田中 みゆき
	養護教諭	久米 真里

分科会②ミドル保育者

司会・コーディネーター	幼児教育コース 教授	田村 隆宏
	幼児教育コース 准教授	木村 直子
提案	教諭(4歳児担任)	杉山 健人
	教諭(5歳児担任)	居上 真梨子

分科会③ミドルリーダー保育者

司会・コーディネーター	幼児教育コース 教授	湯地 宏樹
	幼児教育コース 准教授	塩路 晶子
提案	教諭(5歳児担任)	藤川 佳余子
	教諭(3歳児担任)	鍋山 由美

以上のことから、幼児教育関係者への研修支援が適切にできていると考える。

別添資料1-③ 生活プラン (2014.8.1 発行)
 別添資料4-① 令和4年度参観者 アンケートグラフ・まとめ
 別添資料4-② 令和4年度幼児教育研究会 アンケートグラフ・まとめ

③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修 (WEB) 幼稚園担当指導主事・担当者会議 (WEB) 1名
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園長会, 国・県幼稚園教育課程研究協議会, 日本教育大学協会養護教諭部会・全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会, 養護教諭研修会, 学校保健安全研究協議会 等
- ・市幼稚園教育研究協議会, 全幼研, 教育会主催の研修会, とくしま親なびプログラムファシリテーター養成講座 等

以上のとおり, 数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し, そこで研究発表や話題提供なども行っている。

観点4-2 幼児教育関係者への研修支援等の状況

【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。今年度の具体的な研修支援，教員派遣，公開保育の提供としては，次のとおりである。

- ・令和4年度徳島県保育・幼児教育アドバイザー，令和4年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員，公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部支部長，青少年赤十字徳島県指導者協議会副会長，を園長が務めた。
- ・県・市教委主催の研修会への講師派遣（幼稚園等マネジメント研修，主任教諭研修会）
- ・県幼稚園等新規採用教員研修・幼稚園長等運営管理協議会における指導
- ・県内外研修会への講演講師の派遣（徳島県教育委員会・保育事業団，徳島市教育委員会，高原幼稚園，松茂町教育委員会，徳島市幼稚園長会）
- ・「幼児教育の推進体制構築事業」協力
- ・国立教育研究所プロジェクト研究「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する調査研究」協力
- ・文部科学省委託事業全附属受託研究（ICT活用について）への協力

観点4-3 地域住民への貢献

【観点に係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち，専門性を発揮し，次のような地域貢献を果たしている。

- ・オープンスクールの実施。アンケート回答者78人（11月3日）。
- ・とくしままちなか花ロードProjectに参加し，徳島の中心市街地の緑地化を進めるべく，年3回「西ノ丸橋★子ども美術館」展示に参加。
- ・教育講演会の開催。今年度は，前園長であり本学高度学校教育実践専攻（教職系）幼児教育コース教授 佐々木 晃 先生 を講師に「豊かな資質・能力を育てる附属幼稚園の教育」と題した講演会をWEB配信にて開催した（9月9日～9月20日）。本園保護者に提供し，さらにホームページからも公開し，幼児教育に関心のある方へ公開した。視聴回数は260回であった。

【分析結果と根拠理由】

様々な地域のイベントにも機会を捉えて参加するなど，地域との関わりを意識的にもつよう心掛け，附属幼稚園が地域に果たす役割について職員や園児とも共通認識をもつようになっている。また，地域住民の子育て支援についてもオープンスクールや様々な講演会を実施して，積極的に進めている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

合同研究会や公開研究保育などにおいて，感染症対策を講じて，一定の制限はあるものの本園の研究成果を園外の教育関係者に提供する機会を設けることができた。研究内容では，これまでの遊誘財研究の成果をもとに幼児教育の今日的課題を見据え幼児期に必要な原体験の充実について本学大学職員との合同研究会を行った。

今年度は全幼研徳島支部会員限定で公開保育を行ったことで，保育協議の他にも研究テーマ

に沿った意見交換を行うこともできた。また、リモートによる合同研究会の協議では本学院生からも積極的な参加があり、多様な意見を集めることができた。また、今年度は本園の修了生に協力を呼びかけ、幼稚園時代の遊誘財の記憶についてアンケートを行った。ICTの利点をいかして、広く情報発信や情報収集が可能になった。そこで、これまでの遊誘財研究の成果につながる貴重なデータを集めることができた。

今年度も感染症対策を行ったうえで研究会を開催したが、これまでの反省を踏まえてよりスムーズな運営が可能になった。機器の対応については、大学の情報基盤センターから職員を配置してもらうことで、運営面で非常に強力な援助を頂いた。結果として、研究発表や提案発表・質疑応答などに本園職員が専念することができ、よりよい発表内容につながった。また、幼児教育コースをはじめ教員養成特別コースなど、本学教員や附属小学校教員などの人的資源を得て、多面的な視点からの指導助言を受けることができた。本学教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上に確実につながっている。さらに、幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育の質を考えることができた。

地域住民に対しては、幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を果たしている。

【改善を要する点】

幼児教育研究会において、運営面で外部から情報機器の専門家などの協力を得たことでスムーズになった反面、人件費など費用面での課題が見えた。感染症対策・働き方改革を考えたいうえで、効率的な運営の工夫が必要である。今年度のデータをもとに予算案を立て、早めの計画を立てた方がよい。幼児教育研究会において、今年度のハイブリッド開催での研究発表は概ね好評だったが、予想以上の参会者を迎えたため、アクセス方法の変更を余儀なくされた。適切な対応で変更は行えたが、次年度はもう少し余裕をもって計画する方がよい。また、今年度のアンケートで手元に資料があった方が発表を見やすいという意見があったため、次年度も発表当日までに参加者の手元に届けられるよう、研究紀要作成の日程調整を引き続き行いたい。

次年度も WEB 配信による研究発表が予想されるが、感染防止を徹底しながら保育公開を行えるような対策案をさらに更新していく必要がある。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究の意欲向上に役立つが、今年度も数多くの研修会が新型コロナウイルス感染症により中止もしくは WEB 開催となり、参加の機会が減少した。次年度も引き続き WEB 開催の研修会への参加を推進するなど職員への情報発信や情報環境を整えていきたい。

地域住民への貢献については、感染症対策の観点並びに入園選考を実施していることもあり、地域の多くの方を対象に園を開放することについては難しく、一定の条件を設けざるを得ないという課題も残る。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目 5 教育環境整備

(1) 観点ごとの分析

観点 5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点に係る状況】

施設・設備の充実整備の状況

星組保育室のLED化や幼児が遊ぶ‘こどもの家’の外壁補修や屋上のらせん滑り台、手洗い場等のペンキ塗りなど施設・設備の充実が行われた。また、テレビの更新や家禽舎の修繕を検討している。

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。本園の環境整備についてのアンケートの中でも、もっと整えてほしいと回答された保護者の内容に「老朽化しているところは適宜修理してほしい。」とある。引き続き幼児の安全を最優先に点検や整備を続けていきたい。オープンスクール参加者による集計結果においては、93.5%がよく整っていると認めている。

別添資料 1-① 令和4年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備については、すぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境を常に美しく整備している。

【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和44年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つ。園舎全面改修を切望しているが、現在混然としている幼児教育行政の動向を見定めた幼児教育施設の建設のため、しばらくは部分補修でしのいでいく必要がある。また、緊急を要する箇所（廊下の天井や外壁など）に関しては、補修工事を依頼し補修を終えている。引き続き、本学施設課の迅速な環境整備が不可欠である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目6 教育実習

(1) 観点ごとの分析

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9月13日

学部1年生5名

大学院子ども発達支援コース1年生1名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもへの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 6月7日

学部3年生5名

大学院子ども発達支援コース2年生2名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の实習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属校実習オリエンテーション 7月13日

学部3年生5名

大学院子ども発達支援コース2年生2名

④附属学校園実習 9月5日～9月30日

学部3年生5名

大学院子ども発達支援コース2年生2名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。

⑤教員インターンシップ

学部4年生 ※今年度は該当者なし。

目的：教職に就くことに向けて、実際に教育現場に入り実践することを通じて教師としての力量を形成するとともに、教職に対する理解を深める。地域と連携した学校教育の営みを理解する。これまでの実地教育の成果を生かした教育実践に取り組みむとともに、新たな自己課題の明確化を図る。

⑥基礎インターンシップ 11月15日～11月21日のうち5日間

大学院幼児教育コース1年生1名

大学院子ども発達支援コース2年生3名

目的：子どもとの信頼関係を築き、保育実践力の育成を目指す。

⑦総合インターンシップⅠ 4月21日～5月20日のうち週2日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生1名

目的：新年度当初の幼稚園におけるフィールドワークやアドバイザー教員の取組を通じて、新入園児や進級児と信頼関係を築くためのカウンセリングマインドの習熟や学級経営能力の育成を目指す。

⑧総合インターンシップⅡ 10月20日～11月24日のうち週3日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生1名

目的：幼稚園で配属された学級におけるティーム・ティーチングとしての役割を中心として、アドバイザー教員から指示される様々な園務等も積極的にを行い、保育実践力における状況対応力、人間観・保育観の確立を目指す。

⑨教員体験実習

学部4年生1名

目的：指導教員の補助的な役割を果たしながら、学級経営の実際にふれ、体験的に学ぶことにより、今まで培ってきた教育実践力を確かめるとともに、学級経営・生徒指導等、教師としてのあり方について、幅広く学びとる。また、園内の様々な業務や現在の学校現場で生じている今日的課題に対する対処の仕方などを体験的に学ぶ。

⑩幼児教育実践フィールド研究 I

大学院幼児教育コース（遠隔教育プログラム）1年生6名

目的：幼稚園において保育の参加観察や記録，ディスカッション等のフィールドワークをとおして，保育環境のあり方や子どもの遊びについて，管理職，ミドル，若手保育者など様々な立場から検討を行い，保育を客観的に考察する自身の力を深化させる。

⑪幼児教育実践フィールド研究 I

大学院幼児教育コース（遠隔教育プログラム）1年生6名

目的：幼稚園において特に運動会や園外保育などの行事に参加観察を行い，記録やディスカッション等のフィールドワークをとおして，子どもの遊びについて，管理職，ミドル，若手保育者など様々な立場から検討を行い，行事等について客観的に考察する自身の力を深化させる。

カリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫について

毎日，担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し，週明けに一度，先週一週間の観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。提出に関しては，昨年度から，ペーパレス化や ICT 化を図るため，学習管理システム（Teams）を使用している。当初は，指導計画立案に長時間を要していたが，少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになってきた。保育後は，その日の幼児の生活ぶりを記録し，保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など，自らの言動を振り返りながら，子どもの姿を通して，保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また，評価については，大学から示された＜別添資料6-①＞の「主免教育実習評価ルーブリック」を用いて週ごとに自己評価を実施し，自分の課題が明確になっていった。

別添資料 6-① 主免教育実習「評価ルーブリック」（附属幼稚園）

【資料】 附属学校園実習 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習内容	指 導 要 項	時 間	備 考
1	9月5日	月	午後保育日 教育実習開始 対面式 身体測定(3歳児)	観察参加	○講話①：教育実習の意義(杉山) ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について	15:00～15:30 15:30～	・諸書類提出
	6日	火	みどり会理事会 入園希望者参観①	保育(一部) 保育参加	○講話②：学級経営・学級事務(鍋山) ○講話③：本園の人権教育について(杉山) ●領域研究・環境	13:30～14:00 14:00～14:30 14:30～	
	7日	水	午後保育日 視力検査(5歳児)	保育(一部) 保育参加	○講話④：本園の教育課程・指導計画・日案， 幼児理解と幼児指導について(藤川) ●領域研究・言葉	14:45～15:15 15:15～	
	8日	木	模範保育 (月組：杉山)	観察参加	○模範保育説明・協議 ●領域研究・人間関係	13:30～15:30 15:30～	
	9日	金	午後保育日 救急の日	保育(一部) 保育参加	○講話⑤：家庭との連携について(杉山) ○講話⑥：はとぼっぼのたいそう・親子ダンスについて(杉山) ●第2週保育内容について ●領域研究・健康	14:45～15:15 15:15～15:45 15:45～	
	10日	土					

	11日	日					
2	12日	月	午後保育日 聴力検査(5歳児) 職員会議	保育(一日)	○親子ダンス案披露 ●領域研究・表現	15:45~16:15 16:15~	第1週記録 第2週計画提出
	13日	火	ふれあい実習(1年) 入園希望者参観②	保育(一日)	○講話⑦:行事教育-運動会・園外保育について(居上) ○安全点検	13:30~14:00 14:00~15:00	
	14日	水	午後保育日	保育(一日)	○講話⑧:保健・安全指導について(久米)	14:45~15:15	
	15日	木	入園希望者参観③ 大学芋畑マルチはがし	保育(一日)	○研究保育者決定・評価保育日程について(杉山) ○大学芋畑マルチはがし(※終了後、大学で解散)	13:30~14:00 15:30出発	
	16日	金	午後保育日	保育(一日)	●第3週保育内容, 研究・評価保育について	15:15~	
	17日	土					
	18日	日					
3	19日	月	敬老の日				
	20日	火	学校安全の日 合同研究会	保育(一日)	○研究保育指導案作成 ○園外保育準備	13:30~ 15:30~16:30	第2週記録 第3週計画提出
	21日	水	午後保育日 園外保育(芋掘り)	保育(一日)	○研究保育指導案作成(印刷・環境準備)	15:15~	
	22日	木	実習生研究保育 (園外保育予備日)	研究保育	○研究保育反省会 ●評価保育指導案作成 ●第4週保育内容について	13:30~15:00 15:00~	
	23日	金	秋分の日				
	24日	土					
	25日	日					
4	26日	月	午後保育日	保育(一日)	●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45~	第3週記録 第4週計画提出
	27日	火	実習生評価保育 合同研究会	評価保育①	●評価保育反省会	15:30~16:30	
	28日	水	午後保育日	行事参加 保育(一日)	●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45~	
	29日	木	実習生評価保育 入園希望者参観④	評価保育②	●評価保育反省会	13:30~14:30	
	30日	金	午後保育日 主免教育実習終了	保育参加	○教育実習反省会 ○帳面の記入について(杉山)	15:00~16:00 16:15~	
	10月8日	土	運動会				
	10月9日	日	運動会予備日				

【分析結果と根拠理由】

幼稚園における幼児との直接的な関わりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。新型コロナウイルス対応のため、実習生が考えた運動会の親子ダンスをYouTubeで配信するなど、ICTを効果的に活用することができた。指導案や保育記録の提出や、実習録の記入も学習管理システム(Teams)の機能を使用した。実習生が学習管理システム(Teams)にアップロードした内容を、園の教員だけでなく大学の教員もリアルタイムで共有できるようにした。実習生も、意欲的な態度で実習に取り組み、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、一生懸命取り組むことができていた。実習の質に伴って教職員の指導もより高い実践的能力や研究態度を目指すことができた。子どもとともに生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化がそれぞれに図ることができた実習となった。

また、大学から担当教員が来園し、研究保育、評価保育等、実際の実習を見て指導していただく機会も設けている。大学側からの意見や質問もあつたり、激励にもなつたりと実習の充実に繋っている。

教育実習とは別に、大学の幼児教育コースとの自然プロジェクトのボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい

影響が感じられる。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

別添資料 1-② 令和4年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）
－ 教育実習生のお子様への関わりで気付いたことをあげてください －

- 子どもたちの名前をきちんと覚えてくれて名前を呼んで声かけしてくれたり担任の先生同様に、その日あった出来事等を降園の際に話してくれたり、一日、子どもたちとしっかり向き合ってくれている様子が分かりました。子どもたちも教育実習の先生の事が大好きでした。頑張ってください。
- 運動会での親子ダンスのビデオに実習生がダンスをしてくださっているのを見て、「これが僕の先生だよ」と教えてくれます。男の子は多くを語ってくれませんが「僕の」と言う発信で信頼関係が築くことができているのだなと思っています。実習生が保育を勉強に来てくれている間、「新しい風（若い風）」を感じます。
- 一人一人にしっかり向き合い、関わって頂けていたと思います。
- どの教育実習生も子どもとの関わりで学ぼうという意欲をすごく感じます。子どもの幼児期の教育はとても大切であると思うので頑張りたいです。
- 教育実習の先生とお話したことを帰宅後話していました。「優しくてかわいい。」「先生になるんやなあ。すごいなあ」と言っていました。帰りのあいさつの時も丁寧に対応してくれていました。頑張ってください。
- 教師不足といわれるこの時代に、教師を目指すのはとても感心します。子どもがいつも〇〇先生と慕っているので、子どもに対する接し方が優しく楽しく過ごして下さったのがわかります。実習生の方々は社会の宝です。
- 実習生の方々の礼儀の正しさや、子どもたちへの関わり方はいつも私の方が教えられる様な気持ちでした。意識の高さ、実習前後によく学ばれていることがよくわかります。

別添資料 1-② 令和4年度幼稚園評価アンケート結果報告書

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

実習生の週ごとの実習内容自己評価に関して、附属小学校や附属中学校と評価方法を揃え、今年度からは大学から示された「主免教育実習評価ルーブリック」を用いた。それによって、実習内容自己評価の内容が、教師としての資質・能力、評価する自分の姿勢・姿勢、具体的な場面などより具体的に考えられるようになった。

新型コロナウイルス感染症対応のため、実習の方法に制限があったが、ICT等を活用し、その状況下で例年どおりの成果を上げることができた。

学習管理システム（Teams）を使用することで、大学教員との実習内容の共有を、より効果的に行うことができた。

ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加により教育実習に参加する前に、実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートをスムーズにきることができている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握で

きることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。

学級配当は実習生の希望も考慮して配属した。そのことによって、教員の指導も細かくできた。

教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと一生懸命実習に取り組み子どもとともに生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化をそれぞれが図り、多くの成果が得られた実習となった。

大学の教員及び附属学校校長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校との連携を図っている。

【改善を要する点】

実習生の週ごとの実習内容自己評価に関して、「主免教育実習評価ルーブリック」に示されている内容をそのまま記載する学生もいた。自己評価の方法についても、指導する必要がある。

保育指導案・資料作成と、保育環境の構成について、研究保育や評価保育の前は、指導案作成に時間を割いてしまう傾向にある。両方のバランスを考えながら、実習生が効率的に準備ができる状況をつくっていく必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

III 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	別添資料番号	資料名
1	別添1-①	令和4年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
	別添1-②	令和4年度幼稚園評価アンケート結果
	別添1-③	生活プラン（2014.8.1発行）
2	別添1-②	令和4年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	別添2-①	ほけんだより2月号（2023.2.13発行）
	別添2-②	令和4年度安全管理計画－危機管理マニュアル
4	別添1-③	生活プラン（2014.8.1発行）
	別添4-①	令和4年度参観者 アンケートグラフ・まとめ
	別添4-②	令和4年度幼児教育研究会 アンケートグラフ・まとめ
5	別添1-①	令和4年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
6	別添1-②	令和4年度幼稚園評価アンケート結果報告書
	別添6-①	主免教育実習「評価ルーブリック」（附属幼稚園）